

コロナ禍における  
「生徒の気づきと学びを最大化する」プロジェクト  
オンライン対話のアーカイブ ver3.0



2020年6月12日  
プロジェクト事務局

本プロジェクトは、全国各地の学校が新型コロナウイルスの影響によって休校せざるをえない中、この間の「生徒の気づきと学びを最大化」することを目指して、活動を開始しました。本プロジェクトには、全国56校から主に中学校・高等学校の教員が参画し、互いの知恵を持ち寄りながら、毎週対話を重ねています。この対話で生まれた知見はアーカイブし、多くの教育関係者に活用いただけるように共有しています。本資料は、どなたでも自由に印刷・配布いただけます。以下、目次です。

### 1. コロナ禍で私たちが学んだこと

生徒は何を学び、どう変化したのか？  
教員にはどのような気づきがあったのか？ 等



### 2. 新しい学びの萌芽

休校中の経験をふまえ、今後も生かしたいことは何か？  
各校の取り組み事例

### 3. 直近の課題とその対応

休校中に思うように学べなかった生徒にどう関わるか？  
コロナ禍の長期化にどう備えるか？ 等

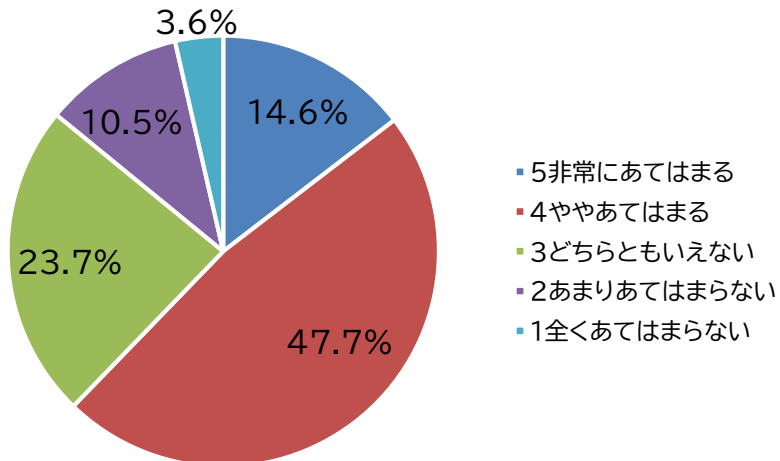
### 4. よくある質問と本PJについて

### 3 コロナ禍で私たちが学んだこと

#### ポイント

- ✓ 休校中の約2か月にわたり、生徒は多くのことを考え、学んだ。
- ✓ 前例のない事態のなか、教員も生徒も多くの新しいチャレンジをした。
- ✓ コロナ禍での私たちのチャレンジのなか、これからの新しい学校の姿、学び方のヒントがある。

私はオンライン学習でも  
目標を設定して地道に達成している



約62%の中高生が  
休校中オンライン学習について  
「目標を設定して地道に達成している」と回答



### 生徒は何を学び、どう変化したのか？

- 学習環境が整わず十分に学べなかった生徒がいる一方、自ら学べる生徒は、以前よりさらに学習が進んでいる。
- 自分の興味あることを探究し、海外の同世代の人と繋がる生徒が出てきた。「苦手な科目を毎日2時間やった！」など、意欲的に学ぶ生徒もいた。
- 「休校中は自分のペースで勉強できてよかった」という生徒が少なからずいた。前例のない学習体験で、生徒も色々な気づきを得たようだ。

### 教員にはどのような気づきがあったのか？

- 学校の役割は、授業のような教えを提供するだけではない。「学校というコミュニティへの所属感」「他者(教員や生徒)との繋がり」も重要だ。
- なぜ学ぶかの意義を感じたり、学んだことを構造化したり、相対化するには、他者の存在が重要である。ここに学校や教員の存在意義がある。
- 休校中に生徒と面談をすると、勉強の相談に加えて、沢山のおしゃべりをした。ちょっとした声かけが生徒のやる気につながることを実感した。

### 生徒-教員の関係、教員の役割にどのような変化があったのか？

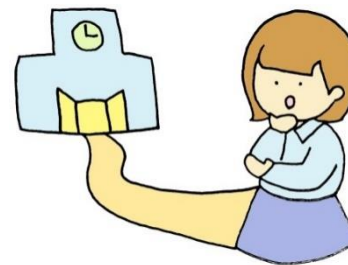
- オンライン活用で、より多様な人と繋がり、豊かな学びを提供できるとわかった。生徒が考えもしなかったこと、よい偶然を提供する役割を担いたい。
- 生徒の努力を認め、フィードバックする役割。自分から学ぶ生徒を応援し、学校や教員が学びの障害にならないようにしたい。
- うまく学びのペースがつかめない生徒をサポートする役割。勉強を教えたり、指導するだけでなく、心のケアの大切さを実感した。

### 何のための登校なのか？

- コロナ禍が当面続くなれば、登校時には対面でこそ価値ある活動を重視したい。昨年までと同じにすることを目的とせず、何が生徒の学びになるかを考えたい。
- どうしても学校に「来なさい」「来てはいけない」という指示になりがちである。生徒の判断で登校し、施設を利用したり、教員の助言を受けられるようにしたい。
- オフライン(登校)かオンラインかの二択ではなく、両方を組み合わせることで、より多くの生徒が、今までよりも深く学べるようにしたい。



## 生徒の声



観点	対話で出た声
登校への期待	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学校でコミュニケーションをとることが、生徒にも先生にも貴重な場であることを、休校中に家にいて感じました。(神奈川・高3)</li> <li>● 登校が再開するが、「普通の授業をするならオンラインでできるのに」と思う。(岡山・高3)</li> <li>● 分散登校で、すごい少ない人数で登校して課題を出すだけ、あるいは授業だけで帰る学校があると聞きます。先生も生徒もわざわざ行くのに、すごくもったいない。(東京・高1)</li> <li>● 私は電車で1時間かけて学校に行くのですが、先生や友達に会えるのに、ほとんど話さず、授業を聞くだけなのはどうなのかな、と思う。(東京・高1)</li> </ul>
授業への期待	<ul style="list-style-type: none"> <li>● やっぱり教科はいくらでも自学自習ができるし、自分ではすでにしているつもり。どうしても「学校に行く意味って?」と考えてしまう。(東京・高1)</li> <li>● これからの授業は、生徒がどう思っているかを尊重した上で行うことが大事だと思う。一方通行な授業は動画で代替できるとか、どこまで受け止められてるか。(東京・高1)</li> <li>● 授業で学ぶこと、の範囲を拡大して考えていかないとまずい気がする。これまで当たり前と思っていた範囲だと、学校でなくても良いとなってしまう。(埼玉・高2)</li> </ul>

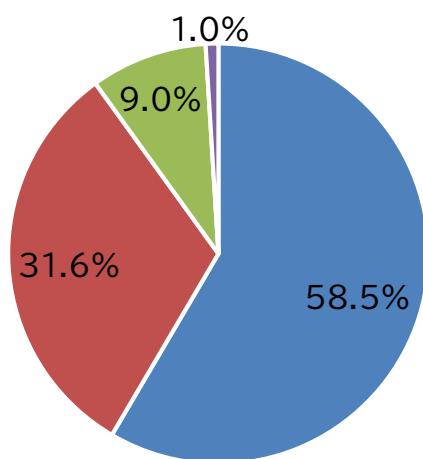
※岡山大学主催のオンライン対話「SDGsユース」参加生徒の声を含む

## ポイント

- ✓ 教員-先生、生徒どうし、教員どうしの関係性をよくすることが、学校が良い学びの場であるために不可欠である。
- ✓ 学校の学びは、教員が与えるものではなく、教員と生徒で創るもの。
- ✓ 生徒の学びの原動力は、「～をさせられる」より「～をしたい/する」。



コロナウイルスが落ち着いたら、あなたは学校でどのような学び方をしたいですか。



- 1. 昨年までと同じように毎日登校し、全員が対面で同じ授業を受ける学び方
- 2. 分散登校(週数回の登校、少人数クラス)と家庭でのオンライン学習を組み合わせた学び方
- 3. オンライン学習を中心として、原則登校しない学び方
- その他

コロナ禍が落ち着いた後に希望する学び方は、

- 約59%が「昨年度までと同じように毎日登校、全員が対面で同じ授業を受ける学び方」と回答。
- 一方、約32%は「分散登校と家庭でのオンライン学習を組み合わせた学び方」と回答。
- 約9%は「オンライン学習を中心とし、原則登校しない学び方」と回答した。



### 休校中の経験をふまえ、今後の授業に生かしたいことは何か？

- オンライン活用は、対話的・協働的な学びに効果があるため、継続したい。  
例えばチャット機能。考えていることがタイムリーに、かつ一斉に可視化できる。
- 生徒同士で質問しあい、教え合い、学んでいけることを強く感じた。  
生徒に問いを与えて、生徒同士で答えを導くような授業スタイルに転換している。
- 「1人でどこでもできる学習」と、「集団で学校にいないとできない学習」に分けて、授業を設計し直そうと検討している。



### 休校中の経験をふまえ、今後の評価に生かしたいことは何か？

- 「評価(assessment)」と「評定(evaluation)」を分けて考える。  
登校・分散登校・自宅学習が混在することで、前者の重要性がよくわかった。
- 「目的⇔目標⇔活動⇔評価の一致」の視点が必要。  
評価だけを切り出さず、上記に整合性があることをシラバス等で示したい。
- 生徒が学習に見通しを持ち、自ら学習を改善できるようにしたい。  
アセスメント等による学習到達度の可視化、適切なフィードバックが必要である。





## 休校中の経験をふまえ、今後の学校運営に生かしたいことは何か？

- 教員同士の対話を増やしたい。休校中に対話の重要性に気付いた。管理職からの指示を待つだけではなく、積極的にどうすべきかを対話したい。
- 生徒、保護者とコンセンサスを取りながら進めることの重要性を学んだ。HPで方針を開示しつつ、WEBアンケートなども使って意見を取り入れたい。
- 生徒に積極的に学校運営に参加してもらえるようにしたい。今回生徒が感じ学んだ「適切な違和感」を学校がもっと汲み取る必要がある。





## 生徒の声

観点	対話で出た声
<p>今後の授業のあり方</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「先生が教えたい/伝えたいことを、生徒がちゃんと理解する」ことで、先生と生徒の関係性が成り立つと思います。(東京・高1)</li> <li>● オンライン授業だと、どうしてもずっと生徒が聞くことが多い。生徒が何か言いたくなる授業、興味の湧く授業が大事だと思います。(東京・高1)</li> <li>● 先生と生徒、その場にいる人の多様な意見や考えを活かす授業をできないか。(石川・高2)</li> <li>● オンライン授業を受けて感じたことは、授業がずっとインプットで、先生の話ばかりが続くと、聞いている身としては疲れること。対面だとしても、インプットばかりだと同じ気がする。(東京・高1)</li> <li>● 休校のおかげで、「教科書を読んで、学ぶ」という意味が分かった。当たり前がなくなったことで、むしろ学びが深まった気がする。(奈良・高3)</li> </ul>
<p>これからの学校運営に関して</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 先生と生徒が、一緒に学びにのめりこんでいる学校が良いです。(岡山・高3)</li> <li>● 今の授業のやり方や校則など、先生も学校によって決められてしまっているのでは。</li> <li>● 先生だって違和感を持っている人が多いように思う。もっと本音で話したい。(東京都・高1)</li> <li>● 多種多様な先生と出会えるようにしてほしい。色々な大人から学びたい。(埼玉・高2)</li> <li>● 今は予備校、参考書、ネット授業などが溢れているので学校には「学力を上げる」以外の役割も担う必要がある。(北海道・高2)</li> </ul>

# 11 新しい学びの萌芽 ～ 各校の取り組み事例

## 長野県立蘇南高等学校

### 3 一週間後(4/27～)「開拓者育成オンライン教育」を開始

- (1) Zoomホームルーム
- (2) Zoom授業による総合の学び、実習をともなう学び
  - ☛ オンラインで地域と協働したい。また、つながりを全国に拡大したい。
- (3) 配布プリント・Classiコンテンツ(新規導入)・「ガイダンス&お助け動画」(一部の教科ではEテレを活用)をくみあわせた**5教科の学び=軌跡の可視化**
- (4) 「気軽な電話窓口」、「温かな図書館」の開設
- (5) **個が横につながる**生徒会・部活動と校長主催の「ブリコラージュ賞」
  - ☛ バドミントン部から「One 蘇南！」をうたう動画が届く。
- (6) 校長ブログを毎日発信
  - ☛ 「炉辺談話」を真似る。司書・芸術科の先生・アーティストの登場。

## 市立札幌藻岩高等学校

### 6 本校での取り組み～探究学習～

- ミライdesignテーマ別講演@Zoom
  - 働く方々にその仕事の内容や、社会の変化に伴うミライにおける仕事や働き方の変化を取材
  - 取材映像を学校HPにて公開
  - 様々な講師とSDGsで繋がる
  - 取材後、生徒もZoomに入り、自由に質問や意見交流
- 「高校生みらいラボ」に生徒を繋ぐ
  - オンラインで社会人と繋がり、ミライについて考える
  - 自分の学校外の高校生・初対面の高校生との対話



7

## 聖和学院中学校・高等学校

**STEP 5** 4月13日(月)～

例：中学1年生 朝礼・終礼・個人面談 **zoom**

- ☺ 平日は毎日、朝礼・終礼・個人面談を行う  
(中学1年生は出席率100%、毎回10分前には集合して雑談タイムを楽しんでいます！)
- ☺ 朝礼ではラジオ体操、終礼ではスピーチリレーを行う  
・ご家族・ペットも参加して、毎日とにかく盛り上がる！！  
・誕生日にはピアノ伴奏に合わせて、皆で歌をプレゼント♪
- ☹ 普通の学校では「先生-生徒」だけでなく「生徒-生徒」の時間もたくさんある！  
「休み時間」のような雰囲気をつくることも必要

SEIWA GAKUIN Junior & Senior high school

## かえつ有明中・高等学校

### オンラインでの取り組み 授業

#### 【数学】

各自小テスト作成



↓  
「良いテストとは？・良い問題とは？」小グループごとに共有・全体共有

↓  
課題に対するルーブリック評価を生徒と共に作成



授業はZOOM、課題提出と連絡はClassroom・メール

## ポイント

- ✓ 自ら学んでほしいが、自ら学びに向かえない生徒がいる。  
全員一律ではなく、一人ひとりの学びを最大化する働きかけをする。
- ✓ 登校できるようになっても、休校中に得た知見を活用する。
- ✓ コロナ禍は今後も続く可能性が高い。  
第2波にも対応できるよう柔軟な体制をつくる。



## 休校中に思うように学べなかった生徒にどう関わるか？

- うまく学びに向かえない生徒向けの教育活動を増やす。  
強制補習みたいにしたくないわけではないが、何かしらフォローする場は必要。
- 現在は、全員一律の分散登校を行っている。  
学習が遅れている生徒が自主的に使える補助登校日等を考えたい。
- 「学びに向かえていない、だから学習を支援する」ではなく、  
まず面談等で生徒と対話し、学びに向かいやすい環境づくりから始めたい。



## 休校中のチャレンジを忘れ、元に戻ろうとする流れとどう向き合うか？

- 一斉休校という特殊な状況だからこそ、今まで見えなかったものが見えた。この間の挑戦で学んだことや良い事例を校内で共有するようにしている。
- 以前に戻りたい気持ちはわかるが、実際は完全に元に戻ることはない。単に元に戻ろうとするのではなく、よりよくなるための方法を全員で考える。
- 教員間でも色々な受け止めがあるのは当然である。正解がないからこそ、教員同士でしっかりと対話していく必要がある。



## コロナ禍の長期化にどう備えるか？

- 自校の存在意義や生徒への提供価値を、きちんと対話し、言語化したい。オンライン学習などが広まったからこそ、今一度学校の存在意義を問い直す。
- コロナ禍を踏まえて「何のためにある学校なのか？」を今一度言語化する。立ち戻る場所として、建学の理念などにも向き合いたい。
- 教員だけで策定したランドデザインを見直したい。生徒の視点が入れて、どのような学びを共に創るかを今だからこそ考えたい。

### 学校再開後から始めた工夫は何か？

- 取り組みを振り返る時間を丁寧にとっている。  
取組状況が不安な生徒もいるので、ポジティブなフィードバックをしてあげたい。
- 生徒に課す宿題について、教科間の連携/調整を始めた。  
「休校中の全教科合計の宿題が多すぎ、自分なりの課題に取り組む時間がない」  
「先生側が、教科を超えてもっと連携して検討して欲しい」という  
生徒からの提言をきっかけに検討している。
- 学校が一方的に判断しないように、定期的にアンケートを実施している。  
生徒には「学校に通いたいのか?」、保護者には「学校に通わせたいのか?」等を聞く。  
当然様々な意見はあるが、まずは声に耳を傾けるようにしている。
- 分散登校開始から1週間、限られた時間の中で最大限の指導を行おうと  
教員が一方的に進めてしまい、生徒が疲弊している。  
従来学校にあった「余白」を大切にし、  
教員にも生徒にも時間と心のゆとりを作ることを意識している。



## Q.休校時の学習支援に関する、文部科学省の方針はどうなっているか？

A.文部科学省による以下の発信をご覧ください。

4月10日

新型コロナウイルス感染症対策のための  
臨時休業等に伴い学校に登校できない児童生徒の  
学習指導について(通知)

<https://bit.ly/3a8hXVh>

4月17日改訂版

Ⅱ. 新型コロナウイルス感染症に対応した臨時休業  
の実施に関するガイドライン

<https://bit.ly/357rURS>

4月21日

新型コロナウイルス感染症対策のために小学校、中  
学校、高等学校等において臨時休業を行う場合の学  
習の保障等について(通知)

<https://bit.ly/2Y6x1Ak>

4月23日時点

新型コロナウイルス感染症に対応した小学校、中学  
校、高等学校及び特別支援学校等における教育活動  
の再開等に関するQ&Aの送付について

<https://bit.ly/2VHljul>

5月15日

新型コロナウイルスによる緊急事態宣言を受けた  
家庭での学習や校務継続のためのICTの積極的活  
用について

<https://bit.ly/2WCNStg>

5月15日

新型コロナウイルスによる緊急事態宣言を受けた  
家庭での学習や校務継続のためのICTの積極的活  
用について

<https://bit.ly/2WCNStg>

5月15日

新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた  
学校教育活動等の実施における「学びの保障」の方  
向性等について(通知)

<https://bit.ly/3bMKKzC>

6月5日

学校の授業における学習活動の重点化に係る留意  
事項等について(通知)

<https://bit.ly/2MI7PZO>

## Q.オンラインでの学習支援における著作権の扱いはどうなっているのか？

A.以下をご覧ください。

4月10日

遠隔授業で教科書利用可能に 改正著作権法、28日施行

<https://s.nikkei.com/2V6Ogj2>

4月23日

教育の情報化に対応した著作権法改正…文化庁が解説

<https://resemom.jp/article/2020/04/23/55981.html>

## Q.オンライン指導における評価の扱いはどうなっているのか？

A. 以下をご覧ください。

4月10日

「家庭学習も評価対象に」 休校中の学習指導で文科省通知

<https://s.nikkei.com/34y2AUQ>



市立札幌藻岩高等学校 佐々木佑季

青山学院高等部 情報科主任 植田晶子/佐藤健悟

田園調布雙葉学園 小林潤一郎

調布市立多摩川小学校指導教諭 庄子寛之

上野学園中学校・高等学校研究開発部長 藤井亮太郎

東京女子学園中学校高等学校広報部長 立原寿亮

神奈川県立西湘高等学校教諭 木村剛

英数学館副校長/岡山理科大学附属高校副教頭 土屋俊之

東洋英和女学院中高部 長船圭宏

さいたま市立大宮国際学園 松田祐輝

神奈川学園中学・高等学校 中野真依/田村純也

広尾学園中学校・高等学校医進・サイエンスコース統括長 木村健太

長野県軽井沢高校校長 下井一志

関西学院千里国際中高等部 米田謙三

三田国際学園中学校・高等学校 大野智久

長野県蘇南高校校長 小川幸司

実践学園中学・高等学校入試広報教頭部長 倉田誠治

立命館宇治高等学校 稲垣桃子

福井県立若狭高等学校 渡邊久暢

自修館中等教育学校進路情報室長 川澄勤

国立大学附属学校教諭 平田知之

福島県立ふたば未来学園副校長 南郷市兵

聖徳学園中学・高等学校グローバル教育部長 山名和樹

私立学校教諭 杉山比呂之

奈良女子大学附属中等教育学校 二田貴広

聖徳大学附属女子中学高校 黒沼靖史

私立学校教諭 増田瑞綺

公立高等学校教諭 高橋就

湘南学園中学校高等学校 小林勇輔

CAP 高等学院(鹿島学園山北高校通信制・サポート校)代表 佐藤裕幸

公立中学校教諭 木下慶之

湘南学院高等学校 行方昭二

教育ジャーナリスト後藤健夫

函館工業高等専門学校教授 下郡啓夫

聖和学院中学校・高等学校 栢本さゆり

合同会社楽しい学校コンサルタント Second 代表 前田健志

(敬称略・一部を抜粋して紹介)

ベネッセ教育総合研究所 主席研究員 小村俊平(代表・文責)

本PJへのお問合せ、ご意見・ご感想等はこちらにお送りください。



nextlearning@mail.benesse.co.jp

